

令和 1年度

事業報告書



特定非営利活動法人

東京ノーヴェイ・レパトリーシアター

1 事業の成果

当年度は、新しい芸術的な試みに大胆に挑戦しました。シーズン期間中、ほぼ毎月1本のペースで能楽堂での連続公演。さらに、これまでにない挑戦として、私たちの芸術監督アニシモフは、過去のドラマ作品を果敢に能楽堂の舞台に乗せました。（これまで能楽堂の舞台に乗せてきたのは、儀式劇を中心とした作品群で、比較的、能舞台との相性を考慮して作られた演目と言えます。）まずオープニングは、新作となるサンテグジュペリ原作『星の王子さま』を、そしてゴーリキーの不朽の名作『どん底』、『コーカサスの白墨の輪』を、そしてもちろんこれまでに上演し好評を受けていたギリシャ悲劇『アンティゴネ』を上演しました（ただし、残念ながら2020年に入っての演目（ブレヒトの寓意劇『コーカサスの白墨の輪』、ギリシャ悲劇『メデア』）は、新型コロナウイルス感染の影響で自粛・延期となってしまいました）。

いずれも好評で、能舞台上演されるサンテグジュペリ『星の王子さま』が「繊細な演劇空間を創った」と好評を受けたことも大きな励みとなりましたが、ゴーリキー『どん底』を上演した際、休憩中に観客の一人が「ゴーリキーのこの作品が、能舞台にこんなに合うなんて…」とため息を漏らしながら感想を語ってくれたことが印象に残っています。能舞台と現代演劇、つまり東西文化の融合に大胆な挑戦をしてくれた私たちの芸術監督アニシモフ氏に改めて大きな感謝を述べたいと思います。

また、能楽堂での連続公演と並行して、下北沢のアトリエでも、ほぼ毎月1本のペースでレパトリー連続公演を行いました。今回のアトリエ公演での目玉は、日本を代表する現代の文学者、加賀乙彦の長編小説『宣告』の舞台化です。しかし、下北沢での公演活動も新型コロナウイルス感染の影響により、3月以降は全て自粛・延期となりました（『曾根崎心中』『白痴』）。

新型コロナウイルス感染の影響は深刻です。人材育成支援事業として行っている「東京インターナショナル・スタニスラフスキー・アカデミー」は途中からオンライン授業に切り替えて、何とか乗り切りました。しかし、国際文化交流事業として4月に予定されていた、モスクワおよびサンクトペテルブルグ演劇祭への招聘公演は実現できませんでした。（現時点では、来年春に延期として予定されています）

この報告書を作成している2020年10月現在、国内での演劇公演は、一応は自粛を解かれましたが、だからと言っていきなりお客様が安心して劇場に足を運べるようになったわけではありません。実際のところ、ヨーロッパでは強烈的なコロナの第2波が押し寄せています。

今回のコロナ禍の中で、一つ顕著になった現象があります。オンラインでのイベントや、ネットによるコンテンツの配信が、今後ますます増えていくだろうということです。私たちもまた、この社会の波に抗うことはできません。私たちはこの大きな波の中で、次の活動形態を模索する段階に入りました。

しかし、私たちが関わるこの仕事、舞台芸術はあくまでも「ライブ芸術」です。映像芸術との共存はあっても、完全に道を譲る訳には行きません。「人間関係が希薄になっていく」というこの時代の危険性に対して、私たちの仕事はさらに責任が大きくなったことを実感しています。

理事長 岡崎弘司

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【9,119】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲・人数	事業費(千円)
演劇の公演事業 (定款5条-1)	<古典の素晴らしさを広めるための公演活動> 能楽堂連続公演 10月、サン＝テグジュペリ作『星の王子さま』公演 11月、ギリシャ悲劇『アンティゴネ』公演 12月、ゴーリキ作『どん底』公演 ----★以下は、コロナの影響で自粛しました。--- 3月、ギリシャ悲劇『メデイア』公演 5月、プレヒト作『コーカサスの白墨の輪』公演	令和1年 10月14日 ～ 令和2年 5月24日	梅若能楽学院会館 (東京都中野区)	40名	一般人 900人	2,730 (千円)
	<古典の素晴らしさを広めるための公演活動> 下北沢アトリエ連続公演 10月、ドストエフスキー原作『白痴』公演 11月、宮沢賢治原作『銀河鉄道の夜』公演 2月、加賀乙彦原作『宣告』公演 2月、サン＝テグジュペリ作『星の王子さま』公演 ----★以下は、コロナの影響で自粛しました。--- 3月、近松門左衛門『曾根崎心中』 5月、ドストエフスキー原作『白痴』公演	令和1年 10月26日 ～ 令和2年 5月10日	東京ノーヴィ・レパ ートリーシアター (東京都世田谷区)	40名	一般人 300人	
演劇芸術に関わる人材育成支援事業 (定款5条-2)	【演劇芸術に関わる教育機関の運営】 「東京インターナショナル・スタニスラフスキー・アカデミー」での教育活動 日本で唯一、ロシアの一流演劇大学と同じ水準でスタニスラフスキー・システムを学ぶことができる、本格的なアカデミーを開校、運営(当期は、第7期生)。	通年	東京ノーヴィ・レパ ートリーシアター (東京都世田谷区)	8人	一般人 20人	5,745 (千円)
	【セミナー、ワークショップの開催】 <「スタニスラフスキー・スタジオ」の運営> 渋谷のウィメンズプラザにて、アイルランドの現代劇『バ リヤガンガーラ～笑いのない町～』上演。 加賀乙彦原作の長編小説『宣告』を舞台化、上演。 下北沢演劇祭にて上演。	通年	「バリヤガンガーラ」公演 東京ウィメンズプラザ (東京都渋谷区) 「宣告」公演 東京ノーヴィ・レパ ートリーシアター (東京都世田谷区)	7人	一般人 人	
演劇芸術を通しての国際文化交流事業 (定款5条-4)	----★以下は、コロナの影響で延期となりました。--- ロシア演劇祭への招へい公演 4月、近松門左衛門『曾根崎心中』サクトペテルブルク公演 (LOFT 国際演劇祭) 4月、ギリシャ悲劇『アンティゴネー』モスクワ公演 (モスクワ国立音楽院国際企画「世界の演劇」)	コロナにより 取り止め	サクトペテルブルク国立 ドラマ劇場 モスク国際音楽会館 (ロシア国)	40名	ロシア国に 住む一般人 不特定多 数	644 (千円)